


見える化ボード｜市民の声レポート 図書館、公民館の利用者団体ヒアリング（2026 年 7 月 11 日） 図書館の利用者団体ヒアリング（2026 年 7 月 21 日）

---

開催のお知らせから参加まで短い期間しかありませんでしたが、それでも多くのみなさんに集まっていただきました。ありがとうございました。予定がつかなかった方も当然いらっしゃったと思います。今後もさまざまな形で対話の機会を設けていきますので、ぜひまたご参加ください。

お話をうかがっていて印象的だったのは、図書館と公民館のみなさんから、よく似た声が上がったことでした。施設は違っても、文化ゾーンに求めるものは重なっている。それぞれ別の場でお聞きしたはずの声が、読み返してみると同じ方向を向いていました。

---

公民館のみなさんから



■活動が「見える」施設に

各部屋で何が行われているかが廊下から見えない現状では、他の利用者やサークルに気づいてもらえないとの意見がありました。廊下側をガラス壁にして活動の様子が自然に見えるようにする案が出ました。カーテンでプライバシーを確保しながら、活動が「見える」施設になれば立ち寄るきっかけが生まれるという声です。Wi-Fi や大型モニター、卓球やビリヤードなど軽スポーツができる小スペース、健康器具についての声も出ました。「子育て世代が来やすい場所に。大きな遊具はなくても人工芝があるだけでよい」という声も寄せられています。

■共同事務室と印刷室は団体活動の生命線

複数の団体が共同事務室を主な活動拠点とし、ロッカーや印刷機を日常的に使っています。会報誌の制作など活動に欠かせない設備です。陶芸サークルが使用する窯も同じとの声がありました。道具がなければどうにもならない活動と、人が集まれば続けられる活動とでは、対応の仕方が違います。個別に考えていくことも大切です。

■「ハレとケ」のある場所に

子育てボランティアのみなさんからは、長岡京らしい「ハレとケ」のバランスという言葉が出ました。おしゃれすぎず、普段着で気軽に来られる安心な場所であること。子育て中の親が乳幼児と一緒に屋内で軽食を食べられる場所、夏季に乳幼児が安全に水遊びできる場所についての声もありました。

賑やかで開放的な空間だけでなく、育児に疲れたときにひっそりと過ごせる「逃げ場」のような空間も必要だという声がありました。その日の気分で使い分けられると良い、という話も出ました。子育てボランティアの活動が知られていないことから、図書館での一時預かり（託児）サービスを実験的に試してみてはという提案もありました。公民館での講座の受講を条件とせず、文化ゾーンで「本を読みたい」「ぼーっとしたい」という親のニーズに応える形です。

■眺望を活かしたカフェ的な空間へ

女性の会、文化協会のみなさんからは、眺望に優れた講座室をカフェのように活用できないかという声がありました。現在未活用の図書館 3 階中庭スペースを防音室として整備するアイデアも出ました。

■工事中の活動継続を懸念

「コロナ禍で活動が止まったとき、会員が減って解散した団体がある。工事中も同じことが起きるのではないか」――この懸念が語られました。約 2 年が見込まれている全面休館を前に、長年続けてきた活動をどう守るかという問いかけでした。

バンビオは人気で予約がとりづらそう、小学校の特別教室開放事業も平日の昼間は利用できないとの意見もありました。「2 年間、どこで活動すればいいのか」という不安は、多くの方が持っておられました。工事期間中の対応について、引き続き一緒に考えていきます。

図書館の利用者のみなさんから



■「音の棲み分け」ができる空間を

静かに過ごしたい人と交流やイベントを楽しみたい人が共存できるよう、「音の棲み分け」が必要との声が多く出ました。声を出して楽しめる人も静かに過ごしたい人も、どちらも「その人らしく過ごせる場所」であってほしいという話でした。

■イベントスペースの整備

読み聞かせやおはなし会ができるイベントスペース、じゅうたん敷きのおはなしコーナーの継続的な整備を求める声がありました。また、リハーサルや練習のための小会議室（準備室）の設置を希望する声もありました。

■飲食可能なスペースの整備

飲食が可能なスペースを求める声がありました。また、カフェや売店など、飲み物や食べ物を購入できる施設を文化ゾーン内に設置を望む意見も寄せられています。

■本があってこそ、の図書館に

施設のハード面だけでなく、運営体制、人材育成、資料費の確保（ソフト面）が不可欠だという声がありました。新刊が入り続けることがリピーターの確保につながるという事例が紹介されました。―どれだけ建物が新しくなっても、本がなければ図書館ではない――そういう思いが伝わってきました。

■工事期間中の貸出について

工事期間中に学校図書館やボランティア活動で使用する本の貸出に関する不安が寄せられました。また、休館に伴う蔵書の特別貸出などのアイデアも提案されました。工事期間中の対応について、引き続き一緒に考えていきます。

---

図書館、公民館双方から共通して出た声

■中高生の居場所として

費用がかからず安心して過ごせる居場所として、中高生が自習や交流のために滞在できる空間を求める声は、図書館でも公民館でも出ました。勉強だけでなく、友人と過ごせる場所としての機能が大切だという話です。活動が「見える」設計が若い世代を引き寄せるきっかけになるという声も聞かれました。

■文化ゾーンの眺望と屋外空間を活かす

八条ヶ池、長岡天満宮への眺望を活かすべきとの声は、図書館、公民館双方のみなさんから多く出ました。天気のよい日に屋外で過ごせるテラスや外スペース、池を埋め立てて飲食や休憩ができる芝生広場にしてはという声がありました。

■雨の日も快適に移動できる施設に

図書館と公民館の間の雨天時の移動が不便だという声も、双方から出ました。駐輪場や公民館から傘なしで移動できるアーケード、屋根付きの渡り廊下についての声が集まりました。

■衛生設備の改修

トイレの数が少なく、設備も古く使いづらい、広さについても現在の基準を満たしていないため改善してほしいとの声がありました。また多目的トイレについても、通常の車椅子だけでなくフルリクライニング車椅子が入れる広さにするなどユニバーサルデザインに配慮した仕様としてほしいという声がありました。

■工事中も活動を続けるために

工事中の活動継続への懸念は、公民館だけでなく図書館のみなさんからも語られました。横浜美術館が休館中に各区へ出張展示を行いリニューアル後の来館者増加につながった事例を紹介しました。学校や公園、地域の寺院など普段と違う場所に出向いて読み聞かせの回数を増やすといったアイデアも出ました。工事中も図書館と公民館が連携して「集える場」を確保し、利用者に断絶感を与えない工夫が大切だという声は、双方に共通していました。

---

みなさんからいただいた声は、今後の基本計画の検討に活かしていきます。引き続きご意見をお聞かせください。